マチに学び都市を楽しむ／まちづくりNPO

特定非営利活動法人 もうひとつの旅クラブ

2009年度（第8期）事業報告書

1. 旅クラブが2009年度に取り組んだ事業実績

2009 年度は、8 月から 10 月にかけて中之島や水の回廊エリアで開催されたシンボルイベント「水都大阪 2009～川と生きる都市・大阪」と連携した活動に多くのエネルギーを費やした。

「水都大阪 2009」にて当 NPO が深く関わった事業としては「北浜テラス」、「クルーズ＆ウォーク OSAKA 旅∞（めがね）」がある。水都大阪 2009 は単なる一過性のイベントではなく、継続・継承をはかり、まちづくりムーブメントの出発点となることを大きな目標としているが、水都大阪 2009 の期間終了後も継続して実施されているのは、奇しくも当 NPO の関わった２つの事業のみであった。その企画、事業スキームの構築、実施運営等を通じて、知恵と汗を併せ持つ当 NPO のプレゼンスが一層高められた。また、「大阪まち遊学」「ご来光カフェ」などの事業の定番化を進め、もうひとつの大阪の旅として浸透がはかられた。

以下が本年度の主な事業項目一覧である。

（１）都市活性化に向けた「まちのインフォメーションセンター」のあり方に関する調査・企画検討
（２）「ご来光カフェ」中之島物語～その魅力と未力　の企画・運営
（３）大阪まち遊学の企画・実施
（４）大阪川床・北浜テラスの企画・調整および実施協力
（５）水都大阪 2009 クルーズ＆ウォーク「ＯＳＡＫＡ旅めがね」企画運営
（６）八軒家浜にぎわい施設の検討
（７）情報提供、提言活動事業

これら事業の詳細や組織内評価分析を以下に報告する。

（１）都市活性化に向けた『まちのインフォメーションセンター』のあり方に関する調査・企画検討

【事業趣旨・目的】

余暇活動の参加人口の第２位を占める観光旅行は、それが裾野の広い複合産業であり、また都市のホスピタリティをひとりひとりの市民から創りあげる性格からも、都市を活性化する根幹となる活動・産業である。近年、旅のかたちが従来の発地型の団体旅行商品から、地域の個性を翻訳し体験や交流取り入れた着地型の活動に変わりつつあり、それに向けた受け皿づくりが喫緊の課題となっている。

ビジターが大阪の魅力を知り、体験し、地域と新たな関係が生まれ、新たなコトが創られる、その現地窓口となるのがインフォメーションセンターである。旅のかたちの変化に応じて、インフォメーションセンターも新たなサービス内容や新たな担い手により再編することが求められている。

本調査は、このような問題意識のもと、これからのまちのインフォメーションセンターのあり方を探ることを目的とした。

【事業内容】

・期　間：2008 年 9 月～2009 年 3 月
・対象エリア：大阪市域
・委託者：関西電力株式会社
・内　容：①旅を取りまく動向
②大阪におけるまちのインフォメーションセンターの現状
③事例調査
④大阪におけるモデル提案

主担当：泉理事長、岸田副理事長、岩田理事、福田理事

（2）「ご来光カフェ」 中之島物語～その魅力と未力 の企画・運営

【事業趣旨・目的】

市民共有の資産である「中之島の水辺」を舞台に「都心の自然」という魅力の発掘を行い、水辺という公共的空間の過ごし方、使い方を多様な側面から提案し、各人それぞれの「中之島時間」を発見していただくことで、実施期間後、１人でも多くの方に中之島の豊かな普段使いをしていただくことを目的とし、今年で４年目の開催となった。

【事業内容】

・期　間：2009 年 10 月 1 日（水）～8 日（水）
・営業時間：日の出（5:50 頃）～8:30
・場　所：大阪水上バス淀屋橋港桟橋
・内　容：①桟橋を装飾し、テーブル・椅子を設置して朝日を眺めるカフェを営業、飲み物は 400 円で提供
②アクア mini によるミニクルーズの実施（6:30 より随時、乗船料 1000 円ﾜﾝﾄﾞﾘﾝｸ付）
③専用ホームページによる PR と営業日誌の公開
④アンケートの実施
⑤継続的な開催のための賛同者・ボランティアスタッフの募集
・協　力：大阪水上バス株式会社

【事業成果】

例年になく雨が多く８日中３日の営業となる一方、中日の４日(日曜)が快晴に恵まれ美しいご来光を眺めることができた。ご来光ファンはこの日殺到し、１日の新記録となる 130 人の来訪者があった。期間全体では 182 人、朝のミニクルーズ参加は 96 人で来訪者の半数以上がクルーズも楽しんでいる。ホームページへのアクセスは3118カウント(8/24～10/24)であった(昨年2495)。

マスコミの取材は毎日新聞、ラジオ放送２回（ABC ラジオ・NHK 大阪第一）であった。人気ラジオ番組での 20 分にわたる詳細な紹介により新聞･ラジオを見聞しての来訪者が 25%を超えた。晴れが少なかった影響か、リピーターの割合は 6 ポイント減った。水都大阪 2009 も開催される中、桟橋の活用と水都大阪の魅力資源を示す、秋の大阪水辺の風物詩として定着しつつある。

「ご来光カフェで一番新鮮に感じられたのはどの部分ですか」との問に対し、今年は「生駒の山から昇る朝日」と答えた人が最も多く、例年と比べて大変高い割合を示した。これは、４日の見事なご来光が影響している。そんな中リピーターは「ゆったりとした時間の流れ」を重視している傾向が見られる点が興味深い。

ABCラジオ
ドッキリ！ハッキリ！
三代澤康司です。
H21.10.1 放送

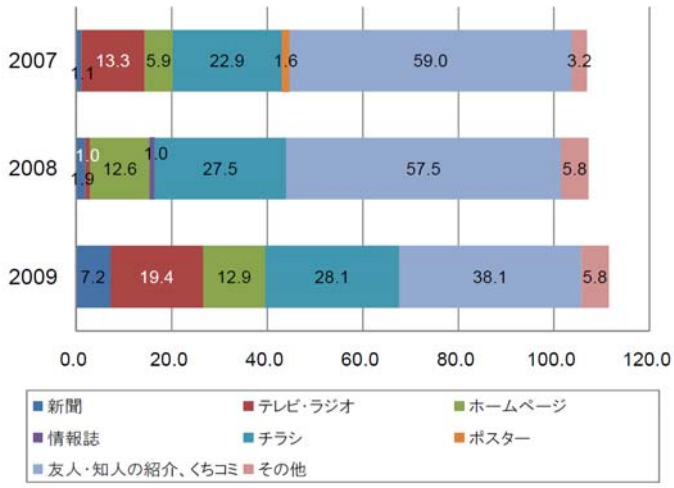
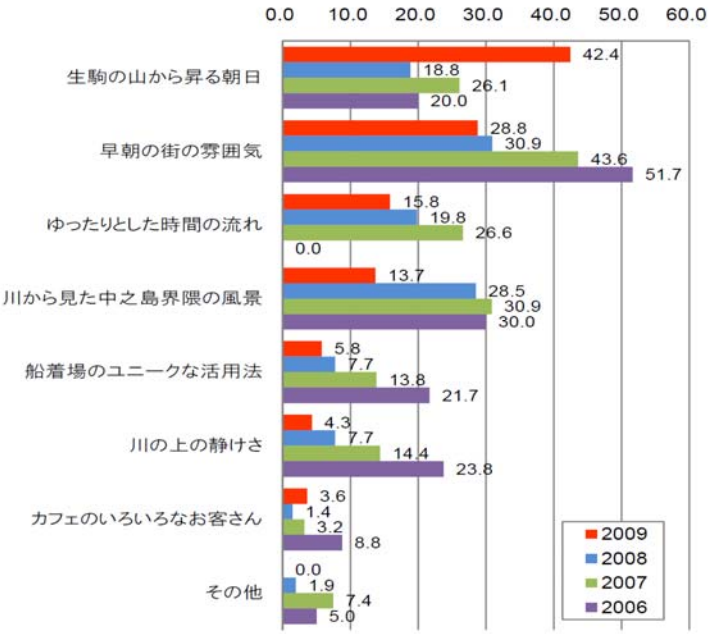
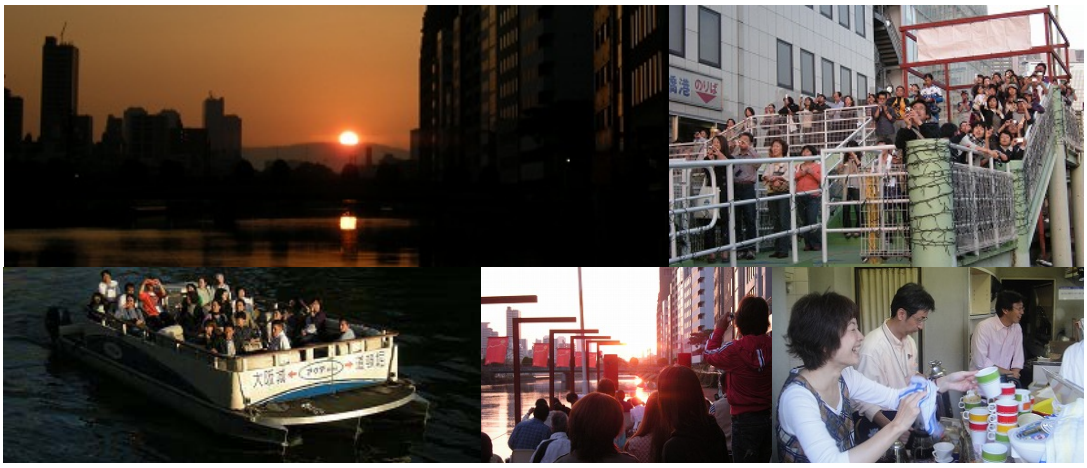


図　情報入手方法の推移



図：一番新鮮に感じられたのはどの部分ですか～年次比較

【活動写真】



主担当：岩田理事

（3）大阪まち遊学の企画・実施

【事業趣旨・目的】

オープンガーデンの庭をまちに例える「オープンタウン」。自分の生活するまち（居住地でも勤務地でも構わない）を、その生活をその人の視点で紹介、自慢する、オープンにする。旅人とジモティとの出会いからこそ新たなコミュニティ・旅のプログラムが生まれる。

【事業内容】

・３コースのまち歩きプログラムを開発、参加者募集、実施

【事業成果】

実施日	エリア	タイトル	参加者数（お客さん）	参加者数（NPO 関係者）
10/10(土)	玉造	玉造のトライ人	6 名	5 名
10/17(土)	西六	西区の六つのいまむかし	10 名	4 名
10/24(土)	大正	大正，モ～1 杯!!	9 名	4 名

・お客さんのコンスタントな参加を得た。

・旅クラブメンバーが自らコースをつくるという貴重な経験をした。

【活動写真】

主担当：福田理事、森、脇

（4）大阪川床・北浜テラスの企画・調整および実施協力

【事業趣旨・目的】

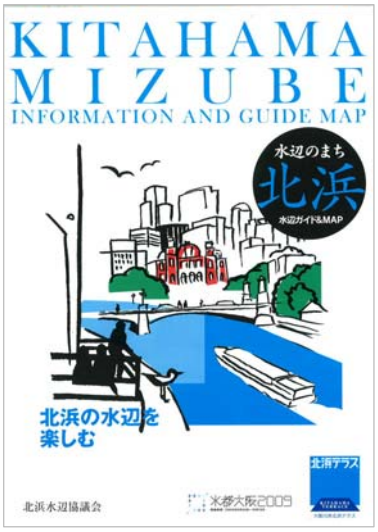
昨年 2008 年、10 月 1 カ月間の期間限定の北浜テラス社会実験が好評だったことを受け、2009 年は常設化に向けた各種検討や関係者の合意形成を図る年となった。

官民の関係者の一致団結した動きにより、全国初の川床の占用主体として地域協議会が認められ、その運用が始まることとなった。

花外楼での設立総会

中之島水辺協議会

常設化に向けて鉄骨の製造



リーフレット

【事業内容】

①協議会組織の設立、地域への呼びかけ

- 協議会設立準備、協議（2/2、2/17、2/25、3/24、4/14、4/28、6/2、6/10、6/30、7/13、8/7、8/26、9/8、10/19）
- 設立総会（7/29）
- 臨時総会（9/2、12/15）
- 理事会（11/16）
- 大商水辺のランドスケープ研究会（6/8）
- お掃除会（10/13）

②テラスの設置・運営

- 好評につき再度一時占用にて床を出す（H21.5.1～7.25））
- 一旦撤去した後、常設仕様の鉄骨の川床を水都大阪 2009 のスタートに合わせ設置、オープン（H21.8.22～）

③常設化への許認可

- 国交省河川敷地占用許可準則の改正（2009.1.28）⇒大阪府が国に要望し「川床」が対象物件に
- 河川区域占用料の府条例化（2009.3）
- 大阪府との基本協定書、協議会規約、設置運用規則などの協議
- 中之島水辺協議会（2009.9.8）にて、北浜水辺協議会が河川区域の包括占用者として認められる
- 2009.11.1 より、常設の規制緩和の許認可スキームに移行

④設計・工事

- 川床ハードのデザインルール、構造、コスト検討→プロトタイプの確立
- 河川管理者、景観担当や建物オーナー、テナントとの合意形成

⑤プロモーション

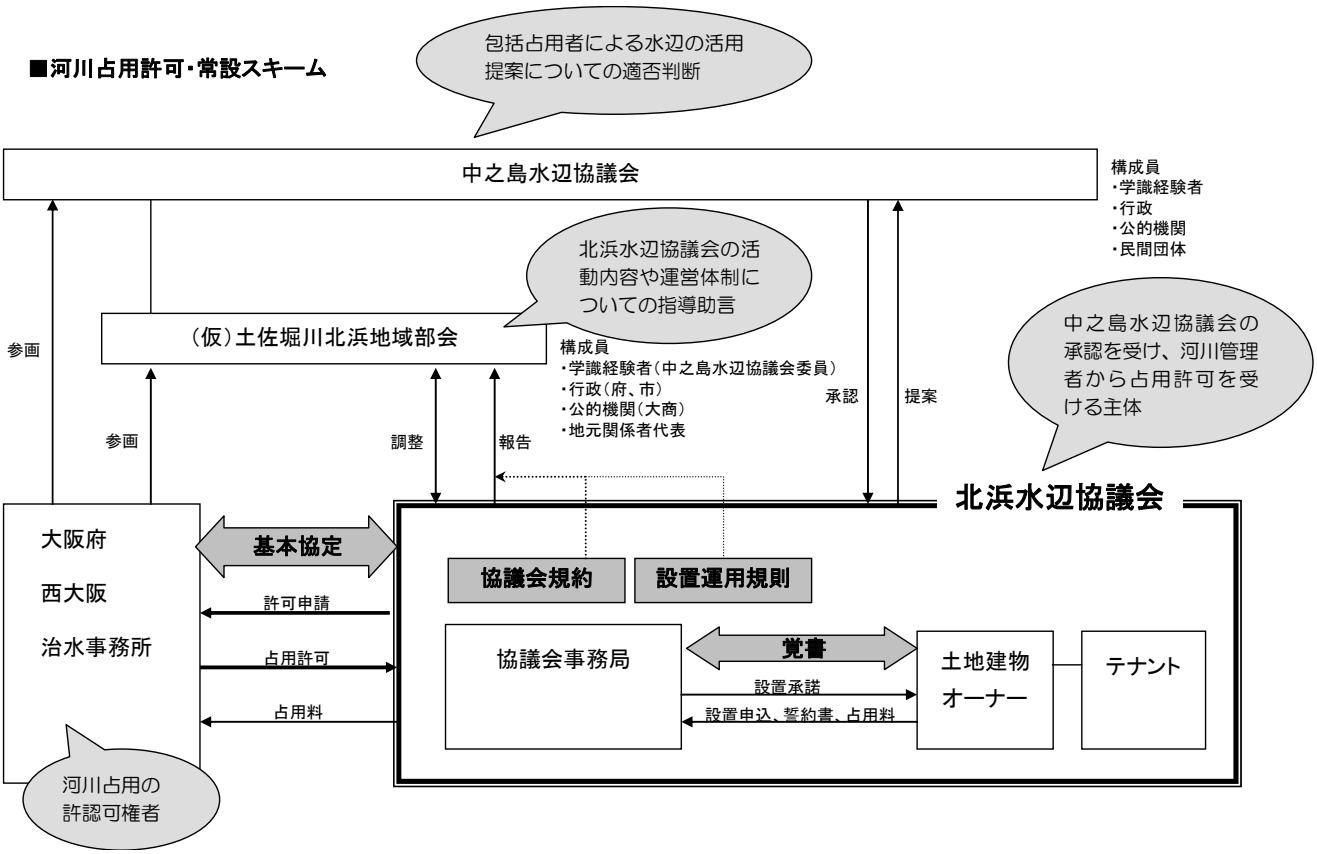
- サイトオープン
- 北浜テラスリーフレット作成

【北浜テラスに関わった人】

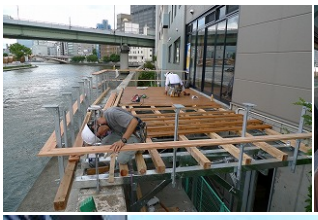
- 建物オーナー・テナント⇒強力な想い、地域調整、出費、運営
- NPO 等専門家集団⇒事業コーディネート、各種技術支援

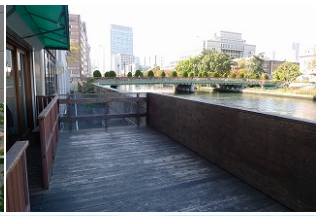
・行政、学識者⇒許認可、規制緩和の仕組み
・商工会議所⇒常設スキームの目処
・水都事務局⇒想いの共有、一時占用主体、事務作業

【北浜テラスの常設許認可のスキーム】



【活動写真】





主担当：泉理事長、岸田副理事長、岩田理事、福田理事
（泉、岸田は北浜水辺協議会の理事を兼ねる）

（5）水都大阪 2009 クルーズ＆ウォーク「OSAKA 旅めがね」企画運営

【事業趣旨・目的】

水都大阪 2009 のプロポーザルへ３社ＪＶ（㈱インプリージョン・山根エンタープライズ㈱・当 NPO）で応募し、当選し事業受託者として「OSAKA 旅めがね」を企画運営した。また、水都大阪 2009 終了後も、自立型着地型観光プログラムとして継続中。

- ●地域の暮らしに根ざした大阪の魅力や水都大阪の物語を通して、リアルで新しい大阪のイメージを創造する。
- ●「大阪人自らわがまち魅力発見」＆「来訪者とのふれあい」の仕組みを構築し、継続可能な観光集客＆郷土愛育みの循環をつくる。
- ●地域と来訪者をつなぐ案内を誇りを持って継続できる仕事に育て、名物エリア案内人を生み出す。
- ●大阪の新たな産業を生み出し、地域コミュニティを元気にする。

【実施概要】

①プログラム名称

「OSAKA 旅∞」（おおさかたびめがね）

②旅めがねのキャッチフレーズ

これまでは旅の目的地ではなかった大阪。いつもと違うメガネで見れば、新しい大阪がたくさん見えてくるはず。大阪の楽しさ無限大！

③主催

水都大阪 2009 実行委員会

④実施運営者（受託者）

株式会社インプリージョン、NPO 法人もうひとつの旅クラブ、山根エンタープライズ株式会社（共同事業体）

⑤実施期間

プレ実施：4 月 25 日（土）～8 月 16 日（日）の土日祝を中心に実施

本番実施：8 月 22 日（土）～10 月 12 日（月・祝）の土日祝を中心に実施

継続実施：水都大阪 2009 終了後も土日祝を中心に実施

⑥販売方法

申込方法：事前申込制（8 日前に手仕舞い、催行プログラムは 2 日前に最終締切）

販売窓口：旅めがねサイト（http://www.tabimegane.com/）

電話受付窓口（06-6120-3277）→6 月より設置

ホテル窓口（12 ホテル）、旅行会社との提携

【プログラム概要】

［プログラムの特徴］

・定期プログラム（通年型、毎週土日祝に実施）と不定期プレミアムプログラムで構成

・そのまちを愛し精通したプロのまち案内人「エリアクルー」と一緒にまわる

・単にまちを歩くだけでなく、「クルーズする」「逸品を味わう」「地元の人と交流する」「体験する」などの地域の暮らしに根ざした「リアルな大阪」を味わう

［プログラム概要］

・16 エリア/17 コース（4 月 25 日からのプレ実施時は 9 エリア 10 コースで実施、8 月 1 日以降水都大阪 2009 での本実施に向けコース拡充）
・所要時間：約 2 時間
・定員：20 名（一部のプレミアムプログラムは 10 名）
・最少催行人数：1 人
・参加費：定期プログラム＝2980 円、プレミアムは各々設定（2980 円～12500 円）

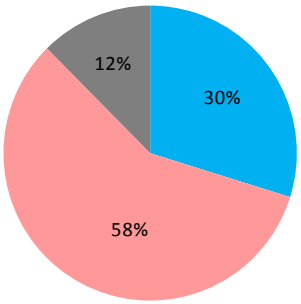
【催行実績】

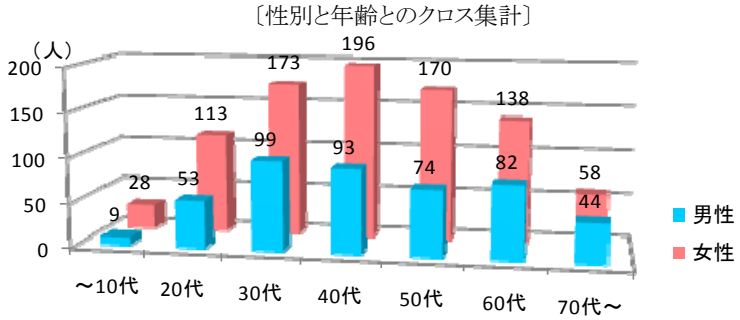
・参加お客様　1681 名（4 月 25 日～10 月 12 日の定期及びプレミアムプログラム）
　1777 名（4 月 25 日～10 月 12 日の定期プログラム及び期間終了後～12 月 10 日実施までのプレミアムプログラム）
・定期プログラム 17 コース（2980 円）
　プレミアムプログラム　6 コース（4 月 25 日～10 月 12 日）　2 コース（スケジュールの関係で 10 月 13 日以降に催行されたプレミアムプログラム）
・地域の協力者約 100 名
・エリアコーディネーター20 名、エリアクルー約 60 名

【お客様の声（アンケート結果より抜粋）】

1．性別

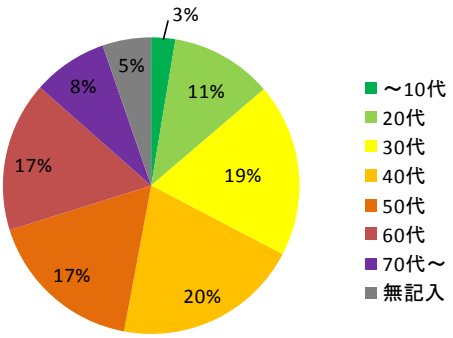
● 参加者の男女比は 1：2 で女性が多く、中でも 30～50 代の女性の参加が多い。





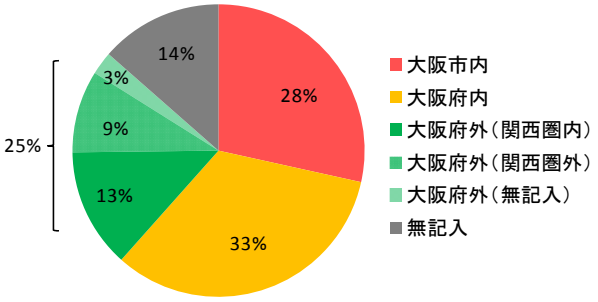
2．年齢

● 40 代の参加者が最も多い。



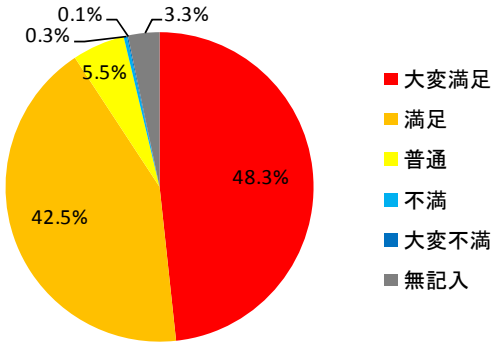
3．住所

● 大阪市内、大阪府内、大阪府外の参加者がほぼ同数。関西圏外の遠方参加者は 1 割。



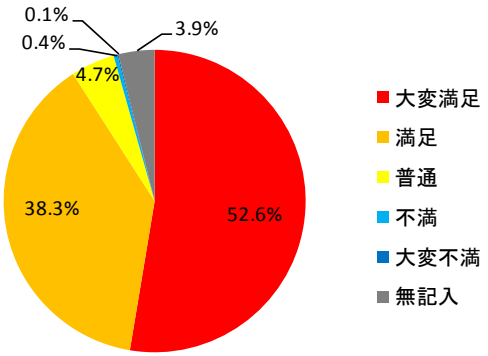
4．ツアーの満足度

- 9 割の参加者が「大変満足」もしくは「満足」。「不満」の参加者は 1%に満たない。

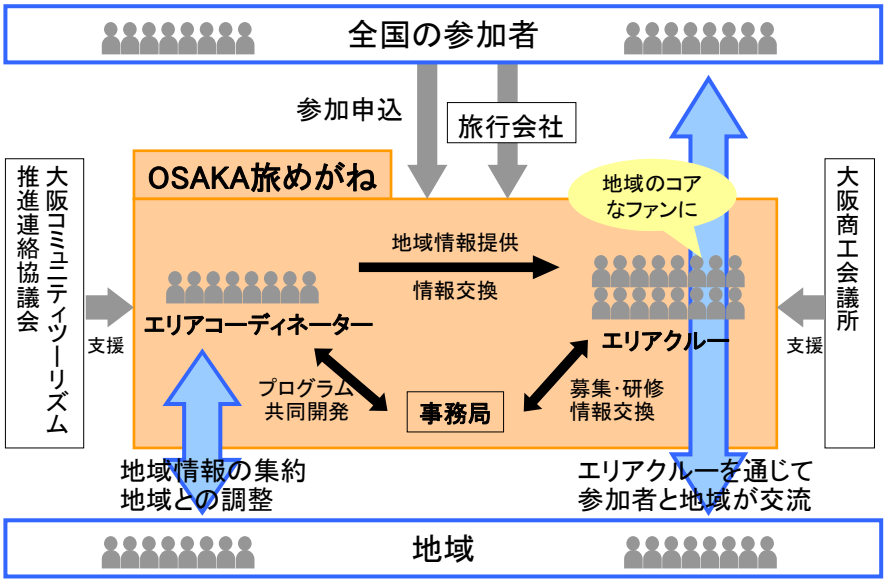


5．エリアクルーの満足度

- 9 割の参加者が「大変満足」もしくは「満足」。「不満」の参加者は 1%に満たない。



【実施体制図】



【事業の評価】

(1) 大阪各地域のまちづくり主体が、新たな大阪の魅力発信のため結束した

・大阪の各地域で特徴のあるまちづくり活動を行ってきた個人・団体が共通の目的のもとに結束

・1 年半もの共同作業を経て事業を創り上げた

(2)「もうひとつの大阪」を体感する新たなコンテンツを開発した

・水都大阪・新しい大阪のイメージ発信、川と陸をつなぐ大阪の新しい楽しみ方を提案

・17 エリアの定期プログラムを開発

・観光地でないふつうのまちを、地域のヒト、食べ物、物語などに触れ合うことでリアルに体感

・従来の 60～70 代中心の歴史散策系まち歩きとは異なるプログラムを打ち出し、評価された

(3) 大阪ファンをつくり、拡げた

・エリアコーディネーター、エリアクルー、地域協力者の 200 名近いネットワーク

・プロの案内人エリアクルー、約 60 名の大阪の旅人をもてなす人材を生んだ

・参加者 1700 名、旅めがねファンクラブ（139 名、H21.12 現在）の存在

・まちのためになるから協力する、自店の PR になった、地域で新たな動きが出てきた等の意見

(4) 自立運営を前提とした事業のプロトタイプを構築した

・一連の事業モデルの構築、試行を経て、継続への足掛かりを得た

(5) 商品のポジションは一定の評価を得たが、認知度はまだ低い

・ターゲット（30～40 代女性中心）と商品内容はおおよそマッチし評価された

・しかし、広く商品の価値が伝わっていない、まだまだ認知度が低い

・プロモーションと収益性のバランス

(6) 大阪コミュニティツーリズム推進連絡協議会やその他公的機関との連携に課題あり

【今後の取組みと課題】

(1) 運営主体

・水都大阪 2009 実行委員会より、旅めがね事務局に引き継ぐとともに、当 NPO から㈲ハートビートプランへ引き継ぐ

(2) こうなりたい

・旅めがねを通じて地域がイキイキ

・大阪にいったら旅めがね

・身近で気軽な楽しみ旅めがね

(3) ターゲット、商品構成

①大阪圏のリピーターお客様を対象に、四季に応じたプレミアムコースの定期的造成

②大阪初心者のお客様を対象に、一日で大阪を堪能できる定番コースを２～３造成、長期的実施

③幅広い大阪魅力コンテンツとして定期プログラムを継続実施

④上記プログラムを持った上で、オリジナルコースへの対応

(4) お客様とのコミュニケーション

・旅めがねファンクラブの増強、長期的な方向性目処

(5) 販売方法

・サイトでの直接販売、仮想モールへ登録、大阪圏地域、趣旨を共有する旅行会社、地域協力者

(6) プロモーションの充実

・継続的・効果的なパブリシティ戦略、サイトの充実、パンフレットの作成、大阪本への掲載、企業とのタイアップ、アカデミック関連、行政やコミュニティツーリズム協議会との連携

(7) 地域との信頼関係の維持、新規構築

(8) 新規コースづくり、協力者を広げる仕組みづくり

(9) エリアクルーの充実、質の向上

(10) 価格設定

【活動写真】

担当：泉理事長、岸田副理事長、岩田理事、福田理事、松岡、水谷、森、脇

（6）八軒家浜にぎわい施設の検討

【事業趣旨･目的】

八軒家浜 2 期工事にて整備が予定されている賑わい施設について、NPO 法人水辺のまち再生プロジェクトと共同で、その可能性について提案し、管理運営団体としてプロポーザル「八軒家浜賑わい施設（仮称）情報発信施設管理運営団体募集」へ応募し、その後近畿地方整備局や大阪府と内容についての検討を行った。

【事業内容】

2009 年 3 月 23 日（月）事業提案書を作成、提出
3 月 26 日（木）プレゼンテーション
4 月 6 日（月）審査結果決定、優先交渉権者に決定
内部ミーティング：2 月 25 日（水）、3 月 4 日（水）、3 月 19 日（木）、6 月 30 日（火）、8 月 18 日（火）、10 月 23 日（金）、11 月 4 日（水）、11 月 6 日（金）
大阪府会議：3 月 6 日（金）、6 月 4 日（木）、8 月 10 日（月）、10 月 19 日（月）
国･府会議：6 月 10 日（水）、6 月 24 日（水）、7 月 8 日（水）、7 月 30 日（木）、8 月 19 日（水）
川の駅はちけんやオープニング式典：7 月 23 日（木）

担当：泉理事長、岸田副理事長、岩田理事、福田理事

（7）情報提供、提言活動事業

（1）～（6）のほかにも、まちづくりＮＰＯとして、大阪のまちの魅力を再発見・開拓し、多くの人々と共有するために、各種情報提供や提言活動への参加などを積極的に展開した。

◆ホームページによる情報提供

当 NPO の社会的プレゼンスの向上に伴い，2007 年度にリニューアルしたホームページ。今年度も最新情報の継続的な提供を試みた。大阪旅めがね，ご来光カフェ，大阪まち遊学，北浜テラスの話題を中心に，13 回の更新作業を実施。

2008 年 6 月 16 日より Google Analytics を用いてトップページのアクセスデータを取得している。アクセス数はまだ多いとは言えないが，ご来光カフェの時期が最も多い。大阪旅めがねサイトとのリンクも新たに見られる。主な内容は下記の通り。

・アクセス数は，ご来光カフェ準備期間と開催中が最も高い。この傾向は昨年度と同じ。最高値は 10 月 1 日に 141 セッションを記録（昨年の最高は 64 セッション（10 月 3 日））。ご来光カフェの注目度が高いことを示している。
・その他のピークとして，3 月 6 日に 35 セッション，9 月 4 日に 34 セッション，4 月 20 日に 23 セッションを示した。平均すると 9 セッション／日である。
・アクセス国は，日本が 91%と断然多いが，以下，韓国（8%），米国（0.6%）も昨年より増。シンガポール，ルーマニア，モンゴル，オランダ，スペイン，香港，ペルーからのアクセスもあった。

・参照元は，direct アクセスが 26%。次に，google が 26%，yahoo が 12%。続いて，新たな傾向として，大阪旅めがねからのアクセスが 6%，ご来光カフェサイトからのアクセスが 5%を示した。

・検索キーワードは，「もうひとつの旅クラブ」が 28%，「ご来光カフェ」が 25%，「旅クラブ」が 8%，「npo 法人もうひとつの旅クラブ」が 4%，「大阪旅めがね」が 4%と続く。「大阪まち遊学」は 7 位（1%）。

※ セッションについて：ユーザーが該当サイトで 30 分以上操作を行なわなかった場合、それ以降の操作は新しいセッションとみなされる。一旦，該当サイトを離れたユーザーが 30 分以内に同じサイトに戻ってきた場合は、最初のセッションの一部としてカウントされる。

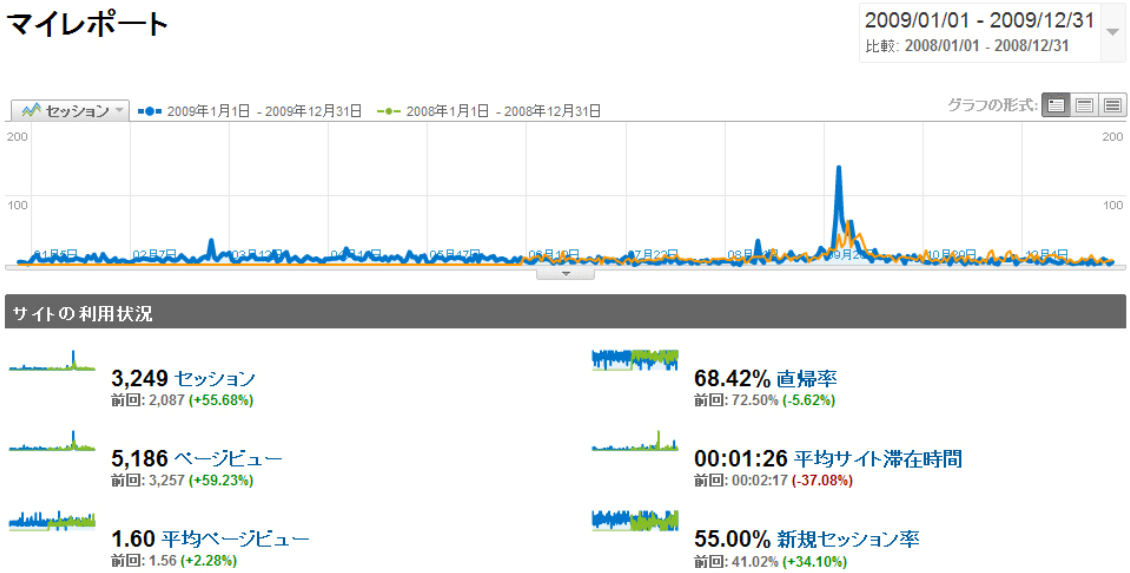


図 Google Analytics 解析画面（青字が 2009/1/1～12/31，緑字・オレンジ線が 2008/1/1～12/31。統計は，2008 年 6 月 16 日開始）

◆各種委員会・審議会等への参加

①中之島活性化実行委員会への参加

中之島地域の活性化を図ることを目的として、その実現達成に必要な事項を検討するために設置。水辺のまちづくり企画推進委員会の実行組織に位置づけられる。

・事務局：近畿運輸局、京阪電鉄、もうひとつの旅クラブ

・実施日：2009 年 1 月 27 日（火）、8 月 7 日（金）　事務局会議 1 月 16 日（金）

・担当：岩田理事

②水辺のまちづくり企画推進委員会への参加

市長や知事、経済界代表などで構成される花と緑・光と水懇話会のもと、水辺の魅力を最大限に活かしたまちづくりの方策を検討する委員会。当 NPO は 2007 年 11 月より新規参加。

・事務局：水都大阪 2009 実行委員会

・実施日：2009 年 12 月 8 日（火）

・担当：泉理事長、岩田理事

③水都大阪 2009 市民参加準備会議、市民企画会議「水都大阪 2009」ワーキングへの参加

水都大阪 2009 の実施にあたり、多様な価値観を持つ「市民＝個人」が集まって、市民参加

プログラムのあり方、会期前の段階から市民が参加して共にイベントをつくりあげていくプロセス、進め方等を議論することを目的に開催された。

・事務局：水都大阪 2009 実行委員会

・実施日：2009 年 1 月 17 日（土）、5 月 29 日（金）、8 月 17 日（月）

・担当：泉理事長、岸田副理事長

④みんなの大阪会議への参加および企画・運営協力

水都大阪 2009 市民参加準備会議に参加した様々な団体・グループのメンバーが中心となって、サロンのような自主的な輪となる交流の場を 2008 年 6 月に発足した。当ＮＰＯも世話人として発足から各回の企画・運営の協力を行った。

・実施日：2009 年 1 月 22 日（木）、5 月 15 日（火）、6 月 23 日（月）、12 月 15 日（火）

・担当：泉理事長、岸田副理事長

⑤大阪市北区シンポジウムへパネリスト参加

大阪市北区主催のシンポジウム「北区･交流まちづくりフォーラム 09　~出会い、知り合い、ともに語る~」にパネリストとして参加、当 NPO の活動紹介や議論を実施

・実施日：2009 年 3 月 22 日（日）

・担当：泉理事長

⑥水都大阪 2009 記念シンポジウムへパネリスト参加

水都大阪 2009 を記念して開催されたシンポジウム「遊びをせんとや生まれけむ　―水都大阪の再生」にパネリストとして参加、当 NPO の活動紹介や議論を実施

・実施日：2009 年 9 月 22 日（火・祝）

・担当：福田理事

◆新聞等への掲載

北浜テラスや OSAKA 旅めがね等の実施を通じた取材、投稿により、当 NPO の活動理念、活動内容が以下の新聞・雑誌に掲載された。

①ランドスケープデザイン No.64　2009 年 2 月号（担当：岸田、岩田）

②毎日新聞朝刊　2009.09.30（松井宏員記者）

③建築と社会「このまちが好き」　2009.07（担当：岩田）

④建築とまちづくり「「水の都」大阪の再生」　2009.10（担当：泉）

⑤㈱フォーラムエイト機関誌 2009.9.1 号（担当：福田）

⑥朝日ファミリー「プロに聞く旬な旅」　2009.12.4（担当：岩田）

ランドスケープデザイン 2009 年 2 月号

27 大阪 市内 2009年（平成21年）9月30日（水）

市内

朝日を見ながらお茶しませんか 「こ来光カフェ」今年も

毎日新聞 9 月 30 日朝刊

マチに学び都市をたのしむ

このまちが好き

まちづくり活動に取り組む人々。

04

I love my town

建築と社会 2009.7

建築とまちづくり

No.380

2009 September

9

都市と河川 ―市民主導による水環境の改善

「水の都」大阪の再生

建築とまちづくり 2009.9

都市と建築のブログ

Vol. 1 大阪「水の都」を再び目指して

㈱フォーラムエイト機関誌 2009.9.1 号

asahi family

プロに聞く旬な旅

「水都大阪2009」の観光プログラムとして始まった「OSAKA歩めがね」。大阪の新たな魅力を知ることができるまち歩きイベントと、今回は、エリアクルーの前田梅雀さんに船場・堺筋エリアを案内してもらった。

コリアタウンで楽しむキムチ作りとまち歩き

スチレンオタクでない大阪の良さを伝えたい

ディープな鶴橋の魅力に触れる

町の魅力は人にあり その やりとりを楽しむ

朝日ファミリー 12 月 4 日

2. 旅クラブの組織活動(組織活動の充実と強化)と財源確保

(1)組織活動、市民参加による事業推進

①会員の拡大

新規会員の増強を積極的に進めているわけではないが、ご来光カフェにおける運営ボランティアスタッフの充実や大阪まち遊学における常連参加者との交流などを通じ、当 NPO の活動主旨に賛同いただける方の発掘に努めた。会員については、2 名の新規入会があった。

◇2009 年度の会員数

・正会員 26 名（前年度比 2 名増）

・賛助会員 0 名（前年度比増減なし）

②組織活動

運営委員会を月例で開催し、大阪まち遊学、ご来光カフェなどの事業の企画・実施方策等を協議した。企画調査業務など専門性が求められる事業においては、受託先との会議やとりまとめ作業は担当理事を中心に行うものの、多才な会員のスキルをできる限り活かした作業分担を図った。

◇総会（第 7 回）の開催

・開催日時：2009 年 3 月 21 日（土）18：00～19：20

・会場：阿倍野市民学習センター（大阪市阿倍野区阿倍野筋）

・出席：9 名（書面出席 13 名）、欠席 4 名

・議案：2008 年度事業及び決算報告

2009 年度計画及び予算の審議

役員改選（根津理事退任→福田理事新任）

NPO 事務所移転に伴う定款変更

◇理事会の開催

理事会は総会に先立ち 3 月 18 日（水）に 6 名全員参加にて行われた。

なお総会に伴い 3 月 21 日の総会後にも理事長など役員選任の理事会が行われた。

◇運営委員会の開催

以下の通り、理事・会員混合型の運営委員会を開催し、各事業の企画・運営協議を行った。

・ 1 月 26 日（月）9 名参加 ・ 2 月 18 日（水）6 名参加 ・ 3 月 10 日（火）7 名参加
・ 4 月 10 日（金）7 名参加 ・ 5 月 14 日（木）8 名参加 ・ 6 月 15 日（月）6 名参加
・ 7 月 16 日（木）5 名参加 ・ 8 月 10 日（月）8 名参加 ・ 9 月 17 日（木）5 名参加
・ 11 月 12 日（木）5 名参加 ・12 月 9 日（月）9 名参加

各運営委員会は当 NPO に興味のある人にオープンで行われ、6 月 1 名、8 月 4 名、9 月 1 名、12 月 1 名のオブザーバー参加をえて行われた。

◇事務局の移転登記

総会決議を経て 4 月 6 日付で NPO の住所を大阪市中央区安堂寺町 2-5-6-202 から大阪市中央区東平 2-3-5-3F に移転登記した。

(2)財源確保の充実と課題

2009年度は「水都大阪2009」に関連した業務が増大したが、収入面ではここ数年と同じく企画調査業務の委託費にて運営の基盤となる定常的な経費がまかなわれており、収支バランスを欠いた状態となった。今後とも多様な活動の財源として外部からの委託業務の受託が重要であるが、受託量に応じた柔軟性のあるNPO運営を図っていく必要がある。

ご来光カフェや大阪まち遊学など定着化した自主プログラムについては、プログラム毎に収支バランスを取る原則で、着実に継続していく。